

しが国際協力親善大使レポート

おおにし りな
大西 里奈さん

隊次：2017年度2次隊

職種：青少年活動

派遣国：マラウイ

自己紹介

滋賀県大津市出身。大学在学中には滋賀県との姉妹都市であるブラジル、リオ・グランデ・ド・スール州の連邦大学へ留学。ブラジルのファベラでフィールドワークを行い、貧困と教育の諸問題について研究しました。

大学卒業後は教育関係の仕事に就き、2017年10月よりマラウイ共和国で活動しています。

マラウイについて

マラウイはアフリカ南東部に位置する内陸国で、面積約11.8万km²の内、約2割をマラウイ湖が占めています。世界最貧国の一つと言われており、労働人口の約8割が小規模農業に従事する農業国です。主要な農業作物はタバコ、茶、サトウキビ、コーヒーです。私が活動している地域は標高1,500m程の高地で、朝晩はかなり冷え込みます。マラウイには多数の民族が存在し、国語はチェワ語ですが、公用語は英語で、地域によって異なる民族語が話されています。

活動について

私の配属先は、マラウイ中部のデッサ県教師研修センターです。区域内の9校の小学校を巡回しながら、表現芸術(美的・知的・道徳的情操を目的とした図工・音楽・体育などの統合教科)の指導法の改善に取り組んでいます。主な活動内容は、表現芸術授業のサポートや、教員対象のワークショップの開催、イベントの企画、芸術クラブの運営です。

マラウイの小学校では1クラスに100人以上の児童が学んでいます。教材と教員の経験の不足から、教科書を丸暗記させる授業が主流であり、表現芸術の授業も座学で行われています。そこで、現地教員とチーム・ティーチングをしながら、シュタイナー教育とグループで学び合う協同学習の理念を軸に、実技を伴った表現芸術の授業を展開しています。

大人数クラスでの一斉講義型授業では、全員の学びを保証することに限界があります。これまで現地教員たちは、授業に参加していない児童を見逃したり、授業内容を理解でき

ていない児童に気付きながらも、諦めて授業を進めていました。

しかし、協同学習を取り入れることで、教員が児童を丁寧に見て、サポートできる時間が増え、児童同士の学び合いの姿が見られるようになりました。スローラーナーのケアもできるようになり、子どもたちが仲間との関わり方、対人関係力を身に付けてくれているようで、とても嬉しく感じています。

また、滋賀県のガールスカウトやびわこ成蹊スポーツ大学などから、楽器やスポーツ用品を寄贈いただきました。これまでは教具がなかったため、活動には限界がありましたが、日本からの支援のおかげで、多様な表現芸術活動が可能になりました。子どもたちにとって、本物の楽器を手にするこも、本物のボールを使ってサッカーやバレーボールをすることも初めての経験となりました。

放課後に実施している音楽クラブでは、長期休暇中にも練習に励み、マラウイの教育科学技術省が開催した会議の開会式での国歌演奏を担当させてもらうこともできました。

マラウイに赴任してから一年以上が経った今は、現地の友達もたくさんでき、配属先や小学校での児童や教員との関わり、停電・断水が日常の生活にも慣れて充実した日々を過ごしていますが、楽しいことばかりではありませんでした。

赴任してすぐに起こった配属先オフィスでの強盗殺傷事件、同僚の死、半年間住居が定まらないなど、精神的に不安定になった時期もありました。自分に何ができるのか、何がしたいのかも分からず、悩んだこともたくさんありました。それでもこの地で活動が続けられているのは、皆さまからの支援があるからです。感謝を忘れず、残りの任期も精一杯活動していきたいと思います。



村の様子



ンゴニ族の伝統衣装



協同学習を取り入れた表現芸術の授業



音楽クラブ



青空教室での授業